

Cheer

3

京都学園大学同窓会報
ツーウェイ
コミュニケーション
ツール



Cheer (tʃiə/tʃɪr) 激励、喝采、歡呼、
声援、応援。また、励ますこと。声援・
応援すること。気分のよいこと。元氣
がよいこと。御馳走。おいしいこと。

INDEX

メッセージ

大学創立20周年に寄せて
同窓会副会長・学
長・経済学部長・法
学部長より

がんばってます

卒業生ドキュメント

地域医療のあり方を考
え、鍼灸クリニックで今日
も患者さんの治療に。
久保大志さん(7期生)

フォトドキュメント

思い出の

第一学寮ドキュメント

トピックス

今年度より新・法学部スタート
大学創立20周年記念式典挙行
●再度ご寄付のお願い

京都学園大学同窓会決算書

KGUクラブ活動記録より

同窓生からの手紙

三遊亭京楽さん(14期生)

紳士録—WHO'S WHO

戦いの日々をながめて同窓
生と出会う

小田敏雄さん(8期生)

応援してよ!!



投稿、写真、手紙、なんでも大募集!

- ① 投稿：内容は不問、量の多少は問いません。
 - ② 写真：見合い写真、古い写真、近況写真、なんでも結構です。
 - ③ その他、どんなことでもお便りを。
- さあ、とにかく、①②③何でも、どんなことでも、京都学園大学同窓会編集部へ郵送してください。こうして同窓会を応援してください。方には、粗品を差しあげます。

●応援のしかた

大学創立20周年を迎えて、わが同窓会のCheer誌も、ちよつと張り切っているようです。創刊号で元気がいっぱい、笑顔で登場して以来、ようやくCheerも三号目を迎え、フレイフレー京都学園同窓会、と、彼女たちの応援ぶりにも、いっそう熱がこもってきました。この同窓会誌Cheerを元気づけようとしていくためには、どうしても会員のみなさんの応援と協力が必要です。

みなさんの身の回りに起こった出来事、例えば、会社のこと、恋人のこと、学校での思い出、なんでもいいのです。写真であれ、手紙であれ、Cheer編集部へ寄せてください。Cheerとは、激励、喝采、声援を意味します。みなさんからの「Cheer」お待ちしています。(松本)

同窓会17年のあゆみ



副会長
堀越直機

同窓会は、昭和48年、第1回卒業生195名により発足して以来、昨年度第17回卒業生を会員に迎えて、会員数7,339名となった。

ここに大学創立20周年を迎えることは同窓会員一同感激にたえないところで、今後の母校の発展を会員一同心より願うところである。

ここで同窓会の歩みを振り返ってみると、昭和47年、第1回卒業生となる4回生が「同窓会設立準備委員会」を発足させたのが、その出発点となった。このあとだちに設立準備総会を開催、会則ならびに同窓会役員が承認され、設立にいたった。第1回総会は、1年後の昭和48年11月に開催され、その後毎年学園祭の期間中に総会を開催することが決定され、常任理事会も定期的に開催されるようになり、同窓会活動は軌道に乗ることになった。

そして、昭和58年11月、設立10周年記念式典が京都ホテルで挙行され、全国から同窓生を中心に300名の出席があった。この年、10周年記念誌及び会員名簿(改訂版)を刊行した。この会員名簿は、昭和54年に第1回名簿を発行、昭和58年に全会員の名簿をコンピュータ登録をおこない第2回目を発行、その後は各年度の名簿を作成している。

そのほか同窓会では、大学創立10周年事業で洗心池畔に藤棚を寄贈、大学ホール、図書館建設でも同窓会員の寄付を募って建設資金の一部を大学に寄贈した。今回の20周年事業でも、同窓会事務局が記念会館に設置されることもあって、全面的に協力している。また毎年、入学生と卒業生にささやかな記念品を贈っており、学園祭やクラブ活動への資金援助にも積極的に取り組んでいる。

今後の同窓会活動としては、母校の発展に寄与していくことを基本として、これまで多少不足気味だったと思われる会員相互の親睦にもっと力をそそいでいきたいと考えている。

このため、まず第一に、会員相互のツーウェイコミュニケーションツールである会報「Cheer」の充実をはかって会員間の情報交換をさらに活発なものとするとともに、年1回の総会も魅力的なイベントを取り入れた参加しやすいものとするを検討している。

さらに全国各ブロックごとに同窓会支部の設立、同窓会会館の建設、全国規模で会員が利用できるリゾート地での宿泊施設の建設もしくは契約、また海外研修ツアーの実施など、さらに同窓会活動を充実させるための事業を手がけていきたいと考えている。

6年後の平成7年には、わが同窓会員も、いよいよ1万名の多数をこえることになる。その前々年の平成5年には、同窓会設立20周年を迎え、その記念式典・講演会などの開催も予定されている。

このような同窓会の発展と飛躍の時を迎えて、今後とも会員諸氏の一層のご協力ご支援をお願いする次第である。

大学創立20周年を迎えて



学長
水野 武

京都学園大学も本年をもって創立20周年を迎えることになりました。これもひとえに創立以前から構想を練り、万全の準備をされ、設立認可にまで種々のご努力を重ねられた諸先輩のご尽力によるものであり、また以来20年大学発展のために努められた教職員の皆さんの存在があってこそと、深く感謝致しております。しかし、学生のいない大学は成り立ちません。その意味では、今日の学園があるのは、学園で育ち、成長し、卒業して行った同窓会の諸君の貢献も大きなものがあります。

この同窓生のコミュニケーション誌が創刊されてから5年、その後の発展を簡単に辿ってみましょう。10周年記念として図書館が新築され、その後、学舎の増改築があり、同じキャンパス内「京都文化短期大学」が出来たことは皆さんも知っていることと存じます。この10年間に学園の雰囲気が大きく変わったことも事実です。しかし、何と言っても、本年4月から新しい構想による法学部が設立されたことは特筆すべきことです。2号館の上の方に、今までのスタイルとはちがった法学部の学舎が立ち、学園の様相も大いに変わりました。諸君の弟分の法学部の成長をみまもって下さい。

20周年記念事業としては、まず11月1日に創立20周年記念式典および祝賀パーティーを全日空ホテルで挙行し、11月11日には、KBSホールで、20周年記念シンポジウムを、「国際化時代における「京都」——21世紀を日ざして——」というテーマで開催しました。いずれも予想以上の参観者で、京都学園大学の存在を広めるのに役立ちました。

また、「京都学園論集」は創立20周年記念号を第18巻第1・2号として特別に発行し、また「20周年記念誌」は日下編集中で、これは明年3月に発行予定となっております。記念植樹も計画が出来上がり、学園の雰囲気を大きく変えることとなります。そして最後に最大の事業として、20周年記念会館を建設中で、これは明年3月に完成します。中身は、学生食堂、軽食、喫茶、ラウンジ、保健センター、父母の会事務室、同窓会事務室、小グループの集会、会議用の部屋などが配置され、学生諸君や、学生会と教職員とがゆっくりに交流する場所が出来ようとなっております。同窓生諸君も出来るだけ機会をつくって、母校に来てUI (University Identity) をたしかめて下さい。すでにお願い致しましたようにこの記念会館については、募金を集めております。今からでも遅くありませんので、ふるってご応募下さい。大学本来の機構としては、現在経営学科の経営学部としての独立を計画しております。これが実現すれば、経済学部、経営学部、法学部の3学部となり、総合大学への第2歩を進めることになり、この方向での学園の発展を目指しております。同窓生諸君が京都学園大学の卒業生として、将来大いに誇り得る大学に成長させるよう、教職員一同は大いに張りきっております。ご期待下さい!!

創立20周年を機にさらなる飛躍を



経済学部長
木内佳市

京都学園大学は、本年開学20周年を迎えました。100年を超える大学もあるので、その歴史は決して長いものではありません。しかし優れた日本人としての人間教育を目指して、独自の学風を創ることに努力を続けてきた本学の特色は強く打ち出されています。社会においてすばらしい活躍を続けておられる卒業生の皆さんが少なくないことは、実に嬉しい限りです。各々の人にとって見れば、大学の生活は僅か4年に過ぎないのですが、その短い間にも人々が収めたところの印象は、終生を通じて忘れることのできないものがあるに相違ないと思います。

京都学園大学歌にある「雲置く峰の龍ヶ尾の麓は未来へ霧霽れて白くも浮かぶ学舎」、「保津の流れは永久と古城の空を仰ぐとき」、「雲仙ヶ岳のみねの雪」の自然に満ちた亀岡の地に光を浴びて丘に立つ京都学園大学、この母校に寄せる卒業生の想いは人一倍強いものがあるのではないのでしょうか。霧の晴れ間に現れるすばらしい自然の景観に茫然としながら、私はこのめぐまれた自然環境と自由な雰囲気と同窓生はいろいろの形で想い出していることを確信しています。

それにしても開学20周年ということは、卒業生が16回、最年長者でもまだ40歳に達していないのです。官界、教育界、実業界、芸能界でもまだ成長・発展の過程にある方々が多いのです。あと20年、すなわち40周年が楽しみです。同窓生の皆さん、しっかり頑張ってください。

京都学園大学も本年4月待望の法学部を開設しました。創業時代不十分だった施設も拡充され、設備においてもコンピュータ、パソコン、L.L.などが整備されています。絶え間なく変化する経済・社会構造の動きにも対応できるように行動力と思考力を身につける教育を目指しています。ビジネス法学を中心とする法学部との連携による「優れた日本人」としての人間教育は、自分で考え、行動するものと、豊かな個性をもった人間づくりを進めるものと、豊かです。

大学は学問と研究の場であり、高度な専門知識と教養を身につける場所ですが、人生におけるこの4年間は社会人として自立して行くことを念頭に自分で行動しなければならぬ大切な時期であるともいえます。先輩である同窓生の皆さんは親愛の情をもって後輩である在校生に接してください。大学教職員も一日も早く同窓生の皆さんが誇りうる京都学園大学になるように全力を尽くして努力する覚悟でおります。母校の益々の充実発展に陰に陽に協力して下さることを心からお願い申し上げます。

法学部開設と大学創立20周年を迎えて



法学部長
窪田隼人

京都学園大学法学部は1989年4月1日に開設され、約190名余の学生を迎え入れてスタートをしています。ときあたかも京都学園大学は創立20周年を迎えました。この記念すべき年に当って、従来経済学部だけの単科大学であったのが、念願の複数学部となり、将来の総合大学へ向けて第1歩を踏み出したといえます。

国際化、情報化、多様化の社会といわれているように、今日の社会は複雑多岐となり、その変動はきわめて急激なものがあります。そして、国民生活や経済活動と法律との結びつきは益々強くなってきており、法と経済とを切り離した学問は成り立たなくなっていると言っても過言ではない状況が生まれてきています。

こうした状況を踏まえて、本学法学部はその教育目標を「ビジネス法学」に置く、新しく、かつユニークな法学教育を目指すことにしました。これまでの法学部における教育目標は、伝統的に法曹教育におかれてきました。しかし、法学部の卒業生の圧倒的多数は企業や行政官庁等においてビジネスマンや公務員として経済・行政実務に携わるのが実態です。これまでの法学教育は、実務上生じた紛争を裁判上どう解決すべきかということも教えずに法の仕組み、枠組みに立って実務がどのように展開され、また展開すべきかという法と実務とを結びつけた形での教育に欠けたところがあったといえます。企業活動の一つとして、たとえばある取引をする場合でも、そこには民法上の契約、商取引契約の問題に止まらず、取引内容いかんによっては環境問題や独占禁止法が係わってきますし、行政上の許認可の問題もあるでしょう。その取引が国際取引であったとすれば、諸外国の法的仕組みの問題が出てきますし、国際貿易上の法律問題が発生します。つまり、企業活動や行政実務は、あらゆる法律問題が取引という一つの窓口のなかに凝縮している状態だといえることができます。

他方、現行の法律は実務のすべてを網羅して規制しているとは限りません。思わぬところに法の規定が欠けている空洞が数多く存在しています。たとえば、情報化ということが社会問題となりながら、情報処理に関する分野は、理論上も規定上も大きな空白部分だといえることができます。そこでは実務が新しい法の枠組みや法理論を形成し、展開してゆくべき性質のものです。

このように、これからの法学教育で大切なことは法的仕組みや法理論が実務のなかでどのように展開され、実践されているかを修得するとともに、実務を通じて法的枠組みを再構築してゆく法的思考力を養うことだと思います。そのことが正にビジネス法学の真骨頂だと考えていますし、わが法学部はそのための基礎的的教育をしようとしております。



第一鍼灸整骨院・院長
久保 大志さん
(昭和54年・経済学部経済学科卒・7期生)

拝啓 貴学の卒業生である久保大志院長宛に同窓生誌「Cheer」が届き、スタッフ全員で楽しく拝見させていただきました。いろいろなコーナーがあり、一息で最後まで読んでしまいました。そのなかの「がんばってます」のコーナーに、是非うちの院長を推薦しようという話になり、みんなで仕事の合間をみつけて、まとめてみました。投稿させていただきます。よろしくお祈りいたします。写真も数枚同封いたします。今後とも、同窓会の発展をお祈りしております。 敬具

第一鍼灸整骨院スタッフ一同より

地域医療のあり方を考え、 鍼灸クリニックで 今日も患者さんの治療に。

多摩の医療
あすへの構図

> 11 <



ここ数年の東洋医学ブームで話題を呼んでいる鍼灸クリニックのひとつ「第一鍼灸整骨院」は、東京の清瀬駅前であり、毎日約100人の患者さんが治療にやってくる。骨折、打撲、神経痛、捻挫と、患者さんの傷病は多岐にわたっており、院長の久保大志さんは、10人のスタッフを率いてその治療にあたっている。患者さんの年齢層は幅広く、午前中はお年寄りの方、夕方まではスポーツ障害の学生たち、夜は会員のひとが多くなる。それぞれの患者さんに対して、中国ハリ、マッサージ、電気療法を行うため、ひとりの治療に約40分以上もかかる。1日の仕事を終えると、どっと全身が疲労感におそわれるが、翌日になって、また患者さんの顔を見ると無我夢中で仕事に取り組んでしまう。「最近では大学・高校、それに社会人のスポーツ選手の患者さんが多くなっていますね。」

久保さんは、高知県出身で、現在も郷里の高知では、お父さんが食品加工工場



を経営している。高校卒業後、京都学園大学の経済学部に入學した当初は、卒業と同時に工場を受け継ぐということが、お父さんとの暗黙の了解事項だった。ところが在学中、久保さんの心の中で、現在の東洋医学への志が頭をもたげてきた。「小学生の時、風呂場で転倒して、そのあと後遺症の座骨神経痛にずっと悩まされてきました。大病院をいくつもまわったのですが症状は改善せず、最後にたどり



ついたのがハリ治療で、ハリを打ち始めてから快方に向かいました。」

こうした経験から、自分も鍼灸を学んで、障害に苦しんでいるひとを救ってあげられないものかと考え始めたのである。

もちろん両親は猛反対だった。しかし、久保さんはそれを押しきって、大学卒業と同時に上京、働きながら5年間学校へ通い、鍼灸師などの資格を取得した。修

業中、院長の診療技術を何とかして学びとろうと張りきっていたが、新入りの久保さんに与えられた仕事は、電気療法の器具の操作で、他のスタッフからは「スイッチマン」と呼ばれていた。それでは院長の診療の様子を見ることすらできない。そこで久保さんは、院長の机のそばにテープレコーダーを置いて診療の様子を録音し、仕事が終わってから、そのテープを聞きながら患者さんの症状と対応させるという勉強法をとった。疑問点は院長に質問して教えを乞い、参考文献なども紹介してもらった。しかし学術書は値段が高くて手が出ないため、図書館や先輩から本を借りて書き写したという。「あの当時は何もかもが新しいことで面白かった。お金はなかったけど、目標があったから苦勞とも思わなかった。」

その後、久保さんは、さらに東洋医学の本場中国で医療を学ぶため、中国に渡り、北京中医学院で研鑽を積んだ。東洋医学は3千年という長い歴史をもつ医療技術であるとともに、それは中国と東洋の思想に体承づけられた奥の深い学問でもある。久保さんはまだまだ中国で勉強をつづけたかったが、まわりからの強いすすめもあり、半年後に帰国して「第一鍼灸整骨院」を開業した。

「開業以来の5年間を振り返ると、全く手

探りて進んできたように思います。」

久保さんの鍼灸クリニックの経営が軌道に乗るまでは、なかなか大変だった。まず困ったのが人材の確保である。久保さんは、患者の主訴をつかむためには、治療者としての腕だけでなく、人間性が重要だと考えている。そうした資質をもつスタッフをあつめるために何度も面接をくりかえした。また、運転資金の確保も大きな問題だった。

「今から考えてみると、この治療院の経営には経済学部で学んだ知識が知らず知らずのうちに役立っていたかもしれませんね。」

何としてもがんばろうと連二無二、突っ走ってきたかいあって、現在では経営の方も軌道に乗りつつある。「ところが最近では忙しくてあまり本を読む時間もない。自分の勉強ができないのがちょっと不満ですね。」

ところで久保さんは東洋医学一辺倒で医療を考えているわけではない。修業時代の3年間、一般病院の整形外科で助手の仕事をしながら西洋医学も学び、東西医療の長所と短所をみてきたからである。「細菌性の病気が急性のものに東洋医学の治療は弱い。しかし慢性的な病気に威力を発揮する。特に神経痛なんか強い。西洋医学の医師、東洋医学の技術者がお互いの領域を勉強し、来院した患者が東西どちらの医療に適しているか判断して、紹介し合うのが一番だと思います。」

そのためには、まず地域医療を大切にすべきだと久保さんは考え、西洋医学による治療の方が適している患者さんは、近くの整形外科へ紹介している。東西医療の連携という大きな課題を抱えながら、今日も久保さんは多くの患者さんを前に臨床に励んでいる。

卒業生ドキュメント

短所補い、多い鍼灸愛好者 中国で既に協調

東西医療

久保大志さんの活躍を報道する地元新聞

御同輩、学生時代が目に浮かぶではないか

思い出の第1学寮 ドキュメント

後輩たちも、
同じように、
青春を
生きている。



▲懐かしの第一学寮の看板。
ちょっと古びてきているけれども、
これには
卒業生たちの思い出が刻み込まれている。



▲学寮を入ってすぐ左手には、
なつかしの事務室。
いつも寮長の目が光っている。
窓口と壁には、
寮生への注意書きが貼り出されている。
後輩たちの寮生活も、
ちっとも変わっていないようだ。



▲ある部屋で。壁には大きな大漁旗が。
学生時代は、誰でも、
でっかい自分の未来の大漁を夢見ているものだ。

▲これまで1300名以上の
寮生が入ってきた風呂場。
痛飲して、ここで酔いを
醒ましたひとも多いことだろう。

▼取材スタッフの意図をうけて、
眠そうに起き出した寮生たち。
ごめんよ。おじさんたちは、
わがなつかしき学生時代に、
ちょっとタイムスリップ
したかっただけなんだ。

この学寮に赴任してきた当初は、一種のカルチャーショックを受けましたね。何しろ孫のような年齢の学生たちと生活することになったのですから。もちろん彼等に注意を与えるだけでなく、時には私の部屋に呼んで、酒を飲みながら人生を語ることもあり。卒業生が私の家に、ひょっこり遊びにくることもある。先日北海道から卒業生がやってきて、私の家に一晩泊まって帰りましたよ。そんな時は、うれしくて、寮長をやってよかったと思いますね。(談)

なつかしの第一学寮
寮長●松岡哲さんへのインタビュー
学生たちと
飲みながら
人生を
語ることも



▶食堂の厨房のそばの
通路は寮長の部屋。
時には、
お酒をご馳走になりながら
寮長と人生を語った思い出も。



▲寮長から模範的寮生だと
推薦された田中源一郎くん
(経済学部経済学科2回生、
落研、芸名・小豆亭金円、
京都府立峰山高校出身)に、
彼の部屋でインタビュー。
「この107号室にいた先輩のみなさん。
先輩たちが使った木の机で、
こうして僕も勉強していますよ。
なつかしく思ったら、
一度この部屋を訪ねてください。」



大学キャンパスから、ぶらぶら歩いて5分足らず。なだらかな坂道の途中にある第一学寮をおぼえていますか？ この今は古ぼけた鉄筋コンクリート4階建の学寮は大学創立当初からあるから、第1期生、第2期生など初期の卒業生の方も、なつかしく思い出すひとが多いと思う。この20年間に第一学寮を巣立った同窓会員は、年間70名、約1300名以上の多数にのぼっている。「私が寮長になって今年で6年になりますが、この学寮は、もともと1回生を大学生活に適応させるためのもので、2回生になると出ていくことになっている。た

だ昨年度から、2回生を5～6名残すことにして、いろいろ後輩たちの面倒をみてもらっています。」
そう語るのは、現在の寮長の松岡哲(65)さんだ。
「創立当初のOBのみなさんもそうだったかもしれないけれども、この学寮に入ってくる学生たちをみてきて思うのは、まあ最初は、ほとんど例外なく挨拶ひとつできない。それに最近の学生は、みんなおとなしくて自己主張がなく、何を考えているのかわからないようなところがある。しかし、そんな学生たちが、2回生になって、ここを出るころには、それ

なりに大学生らしくなっていく。私の役目は、きびしく注意を与えて、しっかりした生活態度を身につけさせることだと思っています。」
御同輩諸氏、この学寮のお世話になった同窓諸兄、なつかしいではないか。寮長の辛口の寮生評を聞いているだけで、自分の学生時代が思い出されてくるではないか。かつては私もそうだったが、誰だって、入学当初は、満足に挨拶ひとつできない、ういいうい新入生だったのだ。「まあ寮生のトラブルといえば、深夜まで酒を飲んで騒ぐ。御法度のマージャン。それに交通違反。そんなところが多いで

すね。」
そういえば、同窓諸兄のなかにも、歴代の寮長に、ご迷惑をかけ、叱られ、面倒をみてもらい、お世話になった思い出をもつひとも多いことだろう。かつての同窓諸兄と同じように、後輩たちもまた、そうして青春を生き、大学生をやっている。そこで今回は、なつかしき思い出の第一学寮の現在を写真でドキュメント。御同輩、この写真をさかんに、酒でも飲みながら、よき大学生活を思い出すことにしませんか。



▲食堂で遅い朝食をとる学生たち。
青春の日々は、
いつの時代でも朝食の時間が
遅くなるようになっていく。

今年度より新・法学部、スタート。

新しいビジネス法学への挑戦

私たちの母校の京都学園大学に、今年度より法学部（法学科）が設置されました。

この新学部を設置により、わが母校は従来からの経済学部（経済学科・経営学科）とあわせて、2学部3学科をもつ社会科学系の総合大学へと、さらに力強い歩みを踏み出しました。

なだらかな龍尾山のふもとに広がるキャンパスを歩くと、図書館の背後の斜面

に法学部の白い壁面のファサードがかがやいています。

このロマネスクな半円型のファサードは、母校のシンボルとして、その威容を誇っているようにみえます。

この新・法学部は、全国でも稀なビジネス法学をめざして設立された画期的な新しい学部です。

ビジネス法学とは、企業や行政での実務が、法とどのようにかかわって運営されているか、また法とこれらの実務とのあいだに矛盾はないかどうかについて、理論と実務の両面から検討していく新しい法学のフィールドです。

母校の新・法学部では、こうしたビジネス法学を学ぶことによって、学生たちが法的な思考と実務の能力を高めていくことを主眼としており、従来からの法学部のいわゆる法の運



用にたずさわる法曹関係の人材の養成だけではなく、企業でビジネスマンとして幅広く活躍できる人材の養成をめざしています。

また企業の国際化と多国籍化の時代を迎えて、たとえば企業活動のさまざまな局面で外国との取引が多くなっているところから、「国際取引法」や「国際投資・開発問題」といった科目を設置しているほか、英会話が必修科目となっています。

こうした新学部の特徴について同窓会員のみなさんにもご理解いただくために、ここに母校の新・法学部のプロフィールを、その教育の特徴と方向性というポイントでまとめておきました。

新・法学部 PROFILE

その教育の特徴と方向性について

ポイント① 現代社会の国際化と情報化と多様化への時代変化のなかで、企業活動や行政実務の局面でさまざまな法律との新しいかかわりが生じているが、これに対応していくには、新しいビジネス法学という視点から法と実務との関係を学ぶことが必要となる。新・法学部は、このもっとも現実的なビジネス法学の確立をめざして開設された。

ポイント② 新・法学部に学ぶと、法的な思考力と実務能力が身につく。「経済活動と法」といった学際的な視野から、たとえば地域開発と自然環境保護

との諸問題、更に住民とのかかわりを総合的に思考する能力を身につけることができる。

ポイント③ また、都市開発関係実務、会社関係実務、契約・金融関係実務など、企業や行政での現実的な諸問題を法的に解決するための実務能力を身につけることができる。

ポイント④ この新・法学部では、さらに今後の国際化時代を視野に、「ビジネス法英語」を設け、英語・英会話力養成にも力をそそぎ、海外の企業などとの交渉や取引にあたることのできる人材の養成をめざしている。

大学創立20周年記念式典挙行

今年、母校は満20歳に。盛大に記念式典が挙行される。

私たちの母校・京都学園大学は、今年満20歳、創立20周年を迎えました。

満20歳といえば、私たちの人間の成人式、母校もやっと大人になる年齢を迎えたということでしょうか。

この大学創立20周年を記念して、キャンパスの洗心池畔に記念会館の建設も始まっています。

また21世紀を視野に新しいビジネス法学の確立をめざす新・法学部も今年4月



よりスタート、母校は今、単科大学から社会科学系の総合大学へと大きく飛躍しようとしています。

この20年間の母校の発展と飛躍には、ほんとうに目をみはるものがあります。久しぶりに母校を訪れてみると、木々が大きくそだったキャンパスの充実ぶりに驚かされます。

そのなかでも、龍尾山を背に半円型の白い壁面をみせている新・法学部のアカ

デミックな学舎の威容が目を見え、またキャンパスに隣接して昭和58年に短期大学が開学されたこともあって、女子学生が目立ってふえています。

そんな変化をみせる母校のキャンパスを眺めていると、この20年間の母校の歩みと伝統の重み、そして時の流れを感じ取ることができます。

こうして満20歳を迎えた母校を祝って、今年秋深まった11月1日、京都全日空ホテルにおいて、創立20周年記念式典が挙行され、式典のあと引きつづき祝賀会が開催されました。

この記念式典と祝賀会の模様を、同窓会のみなさんに写真でお届けいたします。スナップ写真を眺めながら、ご家族と、あるいは近くの同級生と、わが母校の創立20周年に乾杯、今後の母校の発展を祈ることにしましょう。



京都学園大学創立20周年記念事業 記念会館の建設資金について 再度ご寄付のお願い

わが同窓会の会員諸兄姉におかれては、ますますお元気で活躍のことと思います。

私たちの母校は、昭和44年4月に開学、今年をもって満20歳を迎えることとなりました。

時あたかも昭和から平成への心改まる改元の年に、こうして創立20周年を迎える母校は、待望の新学部（法学部）をスタートさせ、単科大学から総合大学への歩みを力強く歩み出しています。

そして母校では、この創立20周年を記念して、さまざまな記念事業を計画しており、そのメイン事業となる記念会館建設では、その一部にわが同窓会事務室の設置が決定しております。

母校の発展はわが同窓の願うところであり、これらの記念事業の遂行を願って、同窓会では役員会で事業への全面的な協力を申し合わせ、会員諸兄姉にご寄付のお願いをしております。

つきましては、何かとご出費多端の折、まことに恐縮とは存じますが、ここに再度、会報Cheerの誌面を借りて、ご寄付のお願いを申し上げます。

わが母校とわが同窓会の一層の飛躍のために、ご理解とご協力をたまりませんようよろしくお願い申し上げます。

平成元年12月
京都学園大学同窓会
会長 浅野 真実

京都学園大学創立20周年記念事業 事業計画

記念会館建設 9億5000万円

●学生たちの福利厚生施設を充実させ、学生・教員・同窓会員など大学関係者のコミュニケーションと学生生活充実のためのスペースとしてキャンパスの洗心池畔に記念会館を建設する。

●この記念会館は、鉄骨・鉄筋コンクリート造2階建、延面積2,864㎡で、すでに着工しており、食堂、ラウンジ、喫茶・軽食コーナーのほか、保健室、相談室、父母の会事務室、会議室、談話室、同窓会事務室などが設置される。

記念行事実施 5000万円

●記念式典・祝賀会のほか、記念講演会・シンポジウムの開催が予定されている。

●そのほか、記念論集・記念誌の発行、記念植樹が予定されている。



募金要項

募金対象物／大学創立20周年記念会館

募金目標額／2億円

寄付金の種類／①法人を対象としてお願いするもの ②個人を対象としてお願いするもの（1口1万円）

募集期間／平成4年3月まで

申込方法／同封の「寄付申込書」（ハガキ）にてお申込みください

払込方法／同封の振込用紙による①銀行振込②郵便振込のほか③現金書留によるお払い込みもお受けしています

減免税措置／ご寄付いただいた金額については、個人または法人の所得から控除され、税法上の優遇措置を受けることができます

募金事務局／☎07712・2・2001（代）



京都学園大学同窓会決算書
昭和63年度

●収入の部 (単位 円)

科目	決算額
前年度繰越金	916,002
会費	11,475,000
雑収入	188,620
収入の部合計	12,579,622

●支出の部

科目	決算額
事務費	233,568
人件費	0
事務補助費	233,568
会議費	131,920
会議費	0
交通費	131,920
事業費	1,568,540
總會費	529,000
助成費	1,008,900
慶弔費	30,640
積立金	10,000,000
事業積立金	10,000,000
予備費	0
翌年度繰越金	645,594
支出の部合計	12,579,622

MESSAGE
体育会系クラブ

野球部
夢は神宮でのプレー、よろしく応援を

京都学園大学は今年で創立20周年を迎えましたが、もちろん野球部も創部20年目です。現在、部員数は36名で京滋大学野球一部リーグを舞台に活躍中です。昨年の春季リーグでは2度目の優勝を飾りましたが、それ以降は部の成績が少々沈滞気味で、今われわれは次の飛躍に向けてチーム強化の道を模索しているところです。この冬は、身心ともに、きびしく鍛え、来年は是非3度目の優勝を狙いたいと部員一同決意を新たにしています。できることなら関西地区の代表として、神宮球場でプレーしたいというのがわれわれの夢です。

●5月…春季リーグ戦・8勝4敗でリーグ3位に終わる。9月…秋季リーグ戦・6勝6敗でリーグ4位に終わる。

少林寺拳法部
それぞれの立場を考え、礼節を重んじて

我々少林寺拳法部は、現在のところ部員8名の構成で、週6日間にわたって、1日2時間、練習に励んでいます。練習時間は、月曜日から金曜日までは午後4時から6時まで、土曜日は午後1時から3時まで。

活動中は1回生から4回生まで和気あいあいと練習しており、楽しくやっていますが、武道全体につうじる“礼節を重んじる”という精神は各々の立場を考えたいうえで、ちゃんと守られております。1年間をつうじて、公式試合にも積極的に参加しています。諸先輩方の強い願いでもあった昇格を、いつの日にか達成するためにも、部員一人一人の個性と力を活かして、一致団結して、がんばっております。

●5月…関西学生大会出場。8月…夏季本部合宿参加。10月…乱取大会出場。

陸上競技部
少人数でも粒ぞろいで、かなり好成绩です

陸上競技部は、現在のところ、人数が少なく、そのうえ活動状況があまり活発とはいえない状態です。しかし、3回生の前田をはじめ、4回生の松井、出口、西村など、粒ぞろいの選手がそろっており、戦績は悪い方ではありません。

また、今年から本学の経済学部事務室に就職された辻彰彦氏を監督として迎え、活動内容も充実しています。

●5月…関西I.C./ハンマー投3位・前田和宏(3回生)。8月…亀岡選手権/100m優

勝・200m2位・出口貴章(1回生)。10月…京都産協・亀岡陸協記録会/100m10秒9・出口貴章(1回生)、ハンマー投42m62・前田和宏(3回生)。

ラグビー部
リーグ戦4試合終わって、2勝2敗です

我々、ラグビー部は、現在ちょうどリーグ戦の真最中です。毎週のように試合があるので、一日一日の練習に気合いが入り、がんばっています。ここ3年、クラブ部員数が少ないながらも、なんとか耐え抜いて戦ってきており、今のところリーグ戦4試合を終え2勝2敗とまずまずな成績です。しかし我々としては、今年は優勝するつもりでやってきましたので大変残念な結果というところ。残り3試合を絶対に負けないように全力でぶつかっていきます。今日までOBの方々から励まされてこられた学園ラグビー部の歴史をけがさないようにがんばりますので、どうか末永く、よろしく応援をお願いいたします。

●4月…ひたすら練習、練習試合もなく、基礎体力づくり。5月…練習試合もまじえて、フォーメーション。6月…2試合練習試合をやり、2敗とよくない。7月…オフ。8月…練習と夏合宿。練習試合3試合で1勝1敗1分け。9月…練習試合1試合やって、勝ち。10月…リーグ戦4試合終わって、2勝2敗とまずまず。

バスケットボール部
2部入りを目前に、がんばってます

我々、バスケット部は、部員10人と少人数ながら、日々、いっしょうけんめい練習に励んでおります。

現在、西日本学生バスケットボール連盟、関西学生バスケットボール連盟、京都学生バスケット連盟に加盟しており、大会があるたび参加して、それなりの成績をあげております。

関西学生連盟では3部ながら、34チーム中、第6位と、2部が目前で、2部をねらって、これからはがんばりますので、先輩のみなさん、よろしくご支援のほどお願いします。

●4月…全関西バスケットボールトーナメント(1回戦敗退)。5月…西日本学生バスケットボール選手権大会(1回戦敗退)、京都学生バスケットボール選手権大会(2勝1敗)。6月…関西学生バスケットボール新人戦(2回戦敗退)。9月…関西学生バスケットボールリーグ戦(ブロック・7勝1敗・2位)(5~8位順位決定戦・2勝1敗・6位)。

スキー部
冬のシーズンへ、最後の追い込みです

我々が体育会スキー競技部は、学園祭も終わって、シーズンに向けて最後の追い込みをしています。主にイメージトレーニング(人間スラローム・サイドチップ・クロウチング)などの練習を、月曜日から金曜日までやっています。

今年度は、全関西学生スキー選手権、木島

平学生スキー大会、岩岳学生スキー選手権の3つの大会を目標としてトレーニングを進めておりますので、お忙しいとは存じますが、練習・合宿への参加をお願い申し上げます。

●5月…全関西スキー連盟主催・春季・季節外競技会(駒伝)出場。10月…全関西スキー連盟主催・秋季・季節外競技会(クロスカントリー)出場。

二輪部
夏の耐久レースでは、もう少しで表彰台に

私たち二輪部は、現在のところ同好会ですが、部員約15名でがんばっています。活動内容は、関西学生二輪倶楽部連盟主催の行事とレースへの参加が中心です。今年はオフロードの成績もよく、オンでもがんばって、幅広い活動をしていきたいと考えています。

夏の3時間耐久レースでも、今年はもう少しで表彰台というところまでいきましたが、来年は今年分までがんばって表彰台をねらいたいです。これからは体育会系部になれるように一生懸命やりますので、OBの方々のご協力とご支援をお願いいたします。

●4月…スズキJAJACUP8位・10位。5月…第16回デルタ安全競技会(団体優勝・5位、個人3位・6位・9位)、キャンパスオフロード(2位・5位)。6月…関西学二連モトクロスレース(50ccクラス・3位)、HART1時間耐久レース(8位)、JAJACUP(7位)。7月…スズキJAJACUP(3位)。8月…学二連夏の3時間耐久レース(ミッションクラス・5位)。10月…キャンパスオフロード(50ccクラス・3位)、HONDA京都選手権(予戦3位・決勝6位)。

KARTE
文化系クラブ

演劇部
まだ女優はませんが、一人芝居などで

我々が演劇部は現在、わずか7名の部員で活動しています。毎年、恒例となっている年間3回の公演(6月公演・学園祭公演・12月公演)に取り組んでいますが、男子学生7名の部員だけでは、やはり各個人への負担が大きく、このところ公演期間中に限って手伝ってくれる有志6名と一緒に活動しています。しかし有志6名もすべて男子学生ですので、女優のいる芝居はやりづらいものがあります。それに7名の部員のうち3名が卒業予定者ですので、そのあとの部員の減少が心配ですが、4月からは新入生を加えて躍進していきたいと思っています。また最近では、一人芝居や2本立て芝居など、ちょっと変わった発想も取り入れてきています。これからも楽しめる舞台

を創り出していきたいと考えていますので、よろしく。

●4月…新入生歓迎祭(仮装行列)。6月…6月公演(青き原の自由騎士・一人芝居)。8月…観劇ツアー。10月…学園祭公演(通り雨 夢か現かまぼろしか)。

鉄道研究会
夏の合宿は、高松琴平電鉄を調べました

今年度は日常の活動の充実をはかり、行事を増やしました。また、夏の合宿では高松琴平電鉄を調べました。通常、週1回部会を開き、空き時間を利用して各々がいろいろな活動を行っています。また他大学との交流を深めるため、関西学生鉄道研究会連盟(略称・学鉄連)に加盟しています。春合宿では1年間の反省や、次年度の行事などについて話し合いました。またクラブ外の活動として、ボウリング大会、ゲーム大会などを企画して、部員同士の親睦を深めたり、他のクラブとの交流も深めています。現在、4回生1人、3回生4人、2回生4人、1回生4人で活動をやってます。

●4月…新入生歓迎展示会。5月…新入生歓迎迎撃会。6月…学内写真展。9月…夏季合宿。

漫画研究会
会誌「QUASAR」発行も、17冊目です

OBのみなさん、お元気で過ごしていらっしゃいますか? 我が漫画研究会、部員26名も元気で活動しております。さて、その活動の中身ですが、「おもしろくなくてはクラブではない」をモットーに、上映会、コンパ、ボウリング大会、同人誌即売会への参加、そして、漫画研究会本来の活動である会誌「QUASAR」の発行も回を数えること17冊目をむかえました。

●4月…上映会、新歓コンパ。5月…ボウリング大会、同人誌即売会。6月…上映会、ソフトボール大会、部員紹介誌発行。7月…夏合宿、読売広告大賞参加。8月…OBツアー。9月…ボウリング大会、同人誌即売会、龍尾祭準備。10月…同人誌即売会、龍尾祭準備。

写真部
写真に対する考え方、個性をいかして

我々写真部は、写真を通じて先輩、後輩の親睦を深め、より一層の技術向上を目的として活動しています。そのため毎月1回の撮影会および例会をおこない、部員一人一人の写真技術をさらにみがくとともに、それぞれの写真に対する考え方や個性をいかせるクラブ活動をめざしています。

現在、4回生3名、3回生2名、2回生2名、1回生4名の11名と少人数ながら写真部をよりよい部にしようと全員一丸となつてがんばっています。また、他クラブとの交流も活発におこなっており、今までにない新しい写真部をつくるよう努力しています。

●4月…新入生歓迎写真展。5月…新入生歓迎迎撃会。7月…学外写真展、夏季合宿。10月…学内写真展。

K・G・U・MAIL BOX

同窓生からの手紙シリーズ
いつかダイヤモンドの詰め合わせを送ろうと
三遊亭京楽さんから元氣なお便り



先日はおかげ様をもちまして第2回京楽の会をどうにか成功することができました。

座席数163席のところへ、240名ものお客様においでいただき、感激の涙を止めることができません。

京楽よろずガイドンやゲストコーナーを含めた魚河岸特集も大変好評で、これからも充実させ、回を重ねてゆきたいと思っております。

翌日TV局へ向かう車の中で、円楽から初めておほめの言葉をいただきました。

「プロとしてお客を呼べるということは、大変良いことである。そしてそのお客様が次に来てくださるような実力を身につけることが、もっと大切だよ。フーフフフフフ……。」

いずれは日本の星となり、皆様のお宅へダイヤモンドの詰め合わせをお届けに行けるその日まで一生懸命精進してゆきたいと思っております。



これからも御指導、御支援のほどよろしく願いたします。

三遊亭京楽
P.S.皆様お元気ででしょうか? 私は最近はいよいよTVの仕事も増えてまいりましてピンボーヒマナシでございます。桂三風さんとともにこれからもよろしく願いたします。

訃報・前学長 田杉競先生ご逝去

前学長田杉競先生(本学名誉教授・京都大学名誉教授)が、去る11月13日、京都第一赤十字病院で、脳梗塞のためお亡くなりになりました。先生は、学長として、わが母校の今日の発展に貢献され、また田杉競ゼミナールで、数多くの同窓諸氏の指導にあたりました。ご葬儀・告別式は、母校の関係者多数列席のもと、11月16日、京都・東山の南明院でしめやかに執り行われました。ここに会員諸氏に先生のご逝去をご報告するとともに、謹んで先生のご冥福をお祈りいたします。

小田敏雄さん

近江屋株 営業部
(京都学園大学経済学部経済学科 昭和55年卒)



近江屋は、京都にある呉服の大手卸商社だ。全国各地にある呉服メーカーから反物を仕入れ、それを全国各地の卸店をつうじて小売店に卸す。つまり呉服の流通の元締め的な商社で、小田敏雄さんは、そこで営業を担当している。

「私の担当は、関東以北の東京から青森まで。月のうち半分が京都、残り半分は地方出張という生活ですね。」

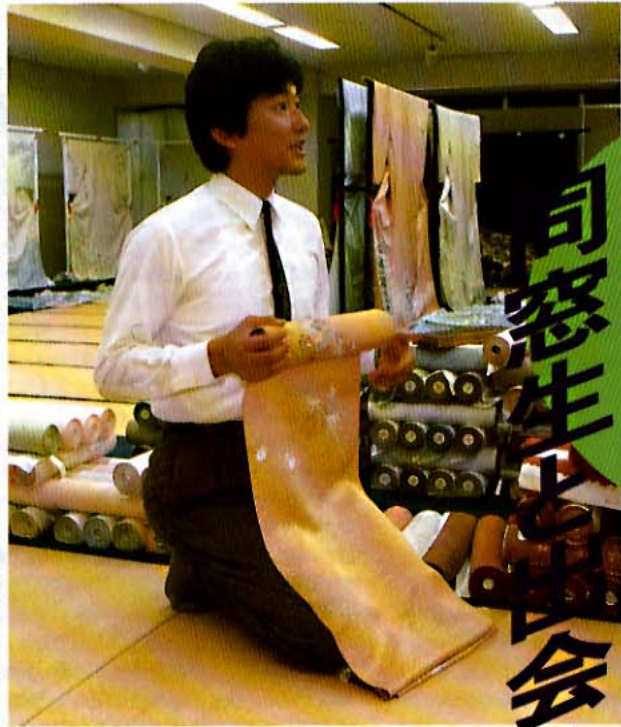
小田さんの仕事は多岐にわたっている。年間をつうじて売れるブライダル商品を中心に、春夏秋冬、シーズンごとに、どのような商品をどのように売るか、展示会の企画とその実施、販促ツールの作成など、個々の卸店の販売戦略を企画立案して全面的にバックアップしていくことが彼の仕事だ。

「たとえば夏のシーズンに大島紬の販促を企画する。まず担当エリアの卸店の方をあつめて産地を見学するツアーを企画する。そこから商談が始まって、展示会の企画、開催、契約と、商売をやっていくわけです。」

こうした企画のメニューは営業本部で立案される。しかしそのなかからこれと思う企画を選んで組み合わせ、自分で勝負する。そこに仕事のやりがいも出てくる。「競合する十数社の卸商社も、同じようなメーカーと卸店を相手に、同じような手法で商売している。それだけに競争が激しい。最後は人間関係が勝負ですね。」

小田さんは、京都・太秦生まれの太秦。京都商業高校から京都学園大に進学、卒業と同時に近江屋に就職した。「京都そだちなのに、着物の知識はゼロ。入社当初は、先輩に何を聞けばよいか、それすらわからなかった。」

そんな小田さんが、現在では、かつて



戦いの日々の中かで
同窓生と再会しよう

の同級生たちにも商売抜きて着物のある生活をすすめるようになっていく。

高校・大学と、小田さんはクラブ活動で軟式テニスをやった。高校時代からの友達をふくめ、現在でも、よく会って、酒を飲んだりゴルフに出かけたり。

「みんな今年で社会人10年選手。それぞれ仕事も忙しくなって、結婚の早かった友達は子供がもう小学生。僕もそろそろ子供をつくらなければならぬと。」

小田さんの奥さんも京都市内に勤めていて、朝いっしょに家を出る。休日は奥さんと買い物に出かけたりドライブしたり、時にはレストランで食事するという優雅なDINKSだ。

ここ数年、呉服業界は多角化の傾向にある。近江屋でも、毛皮、輸入バッグ、宝石、貴金属など、和装ファッション関連商品を扱うようになっていく。

「和装に新しいスタイルを導入する動きがあり、その一方で本物志向も深まっている。それと総合的な和装ファッションへのシフト。僕も宝石鑑定勉強を始めています。」

どの業界でもそうだが、生き残りのための激しい戦いの日々だ。

「取引先や仕事の関係で、先輩や後輩に出会うことがある。いっしょに同窓生と会うかもしれない。それが楽しみですね。」そう語る小田さんの目には母校に対する誇りが浮かんでいた。



京都学園大学同窓会

〒621 京都府亀岡市曾我部町南条 ☎亀岡(07712)2-2001(代)